

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成25年8月15日(2013.8.15)

【公表番号】特表2013-508394(P2013-508394A)

【公表日】平成25年3月7日(2013.3.7)

【年通号数】公開・登録公報2013-012

【出願番号】特願2012-535356(P2012-535356)

【国際特許分類】

C 07 C 51/275 (2006.01)

C 07 C 59/135 (2006.01)

C 07 C 51/29 (2006.01)

C 07 C 53/21 (2006.01)

【F I】

C 07 C 51/275

C 07 C 59/135

C 07 C 51/29

C 07 C 53/21

【手続補正書】

【提出日】平成25年6月25日(2013.6.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

フッ素化カルボン酸及びその塩を調製するための方法であって、一般式(A)のフッ素化アルコール：

A - C H₂ - O H

を、少なくとも1種類の第1の酸化剤及び少なくとも1種類の第2の酸化剤に曝露することにより、一般式(B)の高度にフッ素化されたカルボン酸：

A - C O O⁻ M⁺

[式中、M⁺はカチオンを表し、式(A)及び(B)中のAは同じであり、Aは残基：

R f - [O]_p - C X" Y" - [O]_m - C X' Y' - [O]_n - C X Y -

を表す(式中、R fは、1個以上のカテナリー酸素原子を含んでも含まずともよいフッ素化アルキル残基を表し、p、m及びnは、互いに独立して1又は0であり、X、X'、X"、Y、Y'及びY"は、互いに独立してH、F、C F₃又はC₂F₅であり、ただし、X、X'、X"、Y、Y'及びY"のすべてがHではない)か、あるいは

Aは残基：

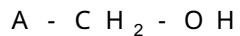
R - C F X -

を表す(式中、X及びRは、水素、ハロゲン、又は、1個以上のフッ素原子を含んでも含まずともよく、かつ1個以上のカテナリー酸素原子を含んでも含まずともよいアルキル、アルケニル、シクロアルキル若しくはアリール残基であり；前記少なくとも1種類の第1の酸化剤は、前記第2の酸化剤の作用によって、前記フッ素化アルコールを酸化することが可能な反応種に変換されうる化合物である)]、又はその塩を生成する工程を含む、方法。

【請求項2】

フッ素化カルボン酸及びその塩を調製するための方法であって、一般式(A)のフッ素

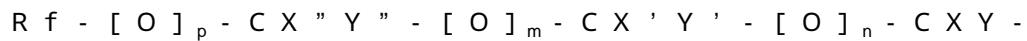
化アルコール：



を、電気化学セル内で電流に曝露することにより、一般式（B）の高度にフッ素化されたカルボン酸：



[式中、 M^+ はカチオンを表し、式（A）及び（B）中のAは同じであり、残基：



を表す（式中、 R_f は、1個以上のカテナリー酸素原子を含んでも含まずともよいフッ素化アルキル残基を表し、p、m及びnは、互いに独立して1又は0であり、X、X'、X''、Y、Y'及びY''は、互いに独立してH、F、CF₃又はC₂F₆であり、ただし、X、X'、X''、Y、Y'及びY''のすべてがHではない）、又はその塩を生成する工程を含む、方法。